

はじめまして今年度から広報委員を担当させていただき友利です。医師会の各委員会は2年が任期で今年度より各委員会の委員が変わったことだと思えます。医師会の委員会の仕事もはじめてなのでこの3ヶ月戸惑いの中での編集後記です。

報告の中から、平成24年度研修医歓迎レセプションの様子を玉井修理事が報告されています。仲井眞弘多沖縄県知事からも歓迎のご挨拶をいただき沖縄県全体で研修医を歓迎しようという雰囲気があふれすばらしい会であったと思います。沖縄県の研修医部門の医学会賞授与式も初めてで研修医の目標の一つとなりすばらしい試みであったと思います。また各研修施設の研修医の熱気にも圧倒されました。エネルギーをわけてもらえた一瞬ではなかったでしょうか。玉城信光副会長のe-レジフェア東京のご報告では、学生のみならず各施設から偵察に訪れていたことは驚きでした。多くの学生が興味を持ち多くの研修医が沖縄県で研修を受け指導医をも活性化して沖縄県全体の医療を盛り上げていけるのではないかと今後が楽しみになりました。

生涯教育コーナーは、琉球大学・皮膚病態制御学講座の眞鳥繁隆先生による代表的な皮膚悪性腫瘍（基底細胞癌、有棘細胞癌、悪性黒色腫）についてです。どのがん種もそうですが早期発見・早期治療が大事ですね。悪性黒色腫が手掌・足底のみではなく躯幹・顔面・下肢などからの発症が増加しているということに驚きました。皮膚の異常で患者さんがこられたときにはすぐに皮膚科受診を勧めたいと思いました。

プライマリ・ケアコーナーでは、琉球大学・麻酔科の中村清哉先生によるむち打ち症と脳脊髄液減少症についてです。むち打ち症の中に脳

脊髄液漏出症や低髄液圧の患者さんが含まれていることがわかってきたそうです。これまでむち打ち症の治療は難しいといわれてきたのはこのような患者さんもふくまれていたのだと感じました。また脳脊髄液減少症で困っていた患者さんにブラッドパッチが保険適応になることは患者さんにとって朗報ですね。これからそのような患者さんを拾い上げ治療に結び付けることが肝要だと感じました。

インタビューコーナーは、新しく中部地区医師会会長に就任された中田安彦先生です。地区医師会の中で一番多い会員数とのことで苦労もあるようですが、多様な考えをまとめ発展させていきたいとの意気込みを感じました。

月間行事のお知らせは、県立中部病院の玉城和光先生に「愛の血液助け合い運動月間に寄せて」を寄稿していただいています。米国での輸血医療について詳しく解説していただいております。私たちの輸血医療を考えてみる必要があります。また県立南部医療センター・こども医療センターの岸本信三先生に「肝臓週間に因んで」を寄稿していただいております。沖縄県と全国の違いがわかり、ここでも早期発見の重要性がのべられています。また肝臓癌は集学的治療が必要な癌種であることが症例を通じてわかります。

編集後記の執筆中、台風も近づき梅雨もまだあけない天気と同様すっきりしない毎日を過ごしております。会員の先生方はどうお過ごしでしょうか？こういう天気のすっきりしないときに医師会報をお手元に精読されてはどうでしょうか？

広報委員 友利 寛文